

「我々ノ敵、日本」ヨリノ拔萃

防共協定締結ニ至ラシメタ交渉ハ一九三六年春、
東京ニ於テ、日本參謀本部ノ大佐級將校ノ一團ト
在東京獨逸及波蘭外交官トノ間ニ端ヲ發シタモノ
ナリ。

コノ考ガベルリンニ於テ支持ヲ受ケタノデ交渉ハ
 同地ニ移サレ、^{オゾ}ゾット大佐ハ、ソレニ参加ノ爲一
 九三六年ノ夏、ドイツノ首都ニ召還サレタ。交渉
 ノ任ニ當ツタ者ハ、遠隔ハロンドン駐劄大使ノ地
 位ヲ去ツテ後協定調印ノタメ、ベルリンニ歸還シ
 タ。「^{オゾ}ゾット・リッペン・トロツキー」及ビ、^{オゾ}ゾット

ベルリン駐在日本大使館付陸軍武官陸軍中將大島

ROSHI
沼反コノ耐議ニ参加ノ爲屢々ベルリンニ赴イタ
SWEDEN
スエーデン駐劄日本公使白鳥敏夫デアツタ。

五〇—五一頁

此協定ノ共同創案者ノ一人白鳥敏夫ガ一九三六年
末ニ、スエーデン駐劄公使ノ地位ヲ退キ日本ニ歸
國シタ當時石協定ガ非常ニ不評デアツタノデ、彼
ノ近親及知友ハ彼ニ彼ガ神戸ニ上陸シタトキニ、

彼ノ經歷ノ上ニ不利ヲ招クモノト思フカラ。協定
 ニ就テハ會談ヲシタリ。聲明ヲ發シタリスルコト
 ラ一切シナイヤウニト忠告ヲシタ。
 白鳥ハ太^の工^の大^のニヨリ歸國後彼自身私ニ話シタガ
 此協定ハドンナ種類ノ繪ガ役ニ當カレテモ。ソノ
 額縁トシテ後立ツヤウニ。言葉遣ヒガ殊更曖昧ニ
 サレテアルト語ツタ。ソシテコレハ。コノ協定ノ
 實施上非常ニ眞實ナ機會ヲ與ヘルノデソノコトガ
 コノ協定ノ強味デアルト語ツタ。私ガ白鳥ニ此交
 渉ニ於ケル彼レノ役割ハ何シナモノデアツタカト
 尋ネルト。彼ハソレヲ。第二戦線ニ居ル中國兵ハ
 第一線ノ兵ガ退却シソウニナルト彼等ニ向ケテ發
 砲スルノヲ常トスルト云ヲ日本デ屢々傳ヘラレテ
 キル譯ニ譬ヘタノデアル。白鳥ハ彼ノ役辭ハ「第
 二戦ト中國兵」ノソレデアツタト語ツタ。